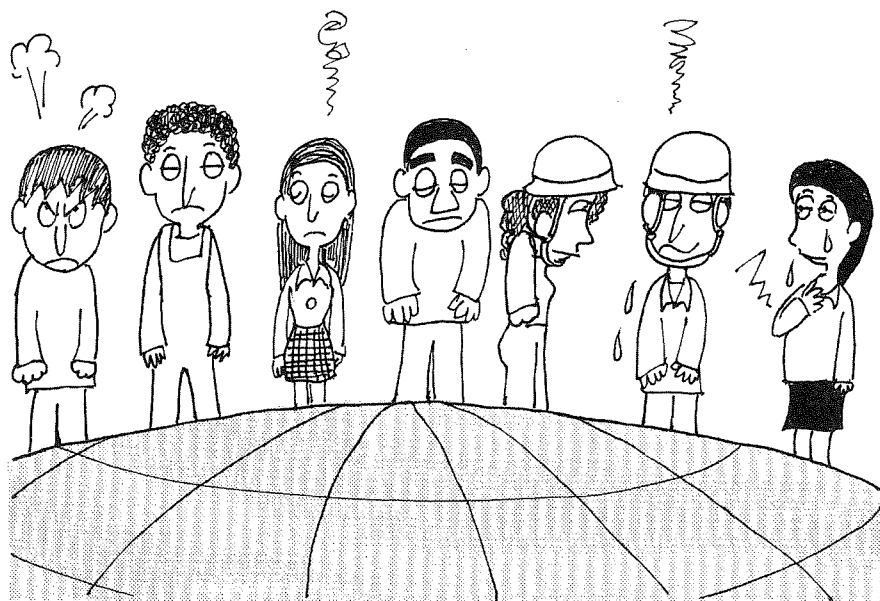


# 労働者の心の不調 経済損失は年に1兆ドル

—メンタルヘルス対策で WHO・ILO が提言—

世界保健機関(WHO)と国際労働機関(ILO)は本年9月28日、働く人々のメンタルヘルスを守る対策を呼びかける「政策概況」を発表しました。

世界で、うつや不安神経症による労働損失日数は年に120億日、経済損失はおよそ1兆米



ドル(150兆円)日本の国家予算約120兆円)と推定されています。政策概況では職場のメンタルヘルス・リスクを予防する戦略についてまとめています。

WHOが2019年に調査した10億人のうち労働年齢の成人の15%が何らかの精神障害を経験していることが分かったと言います。

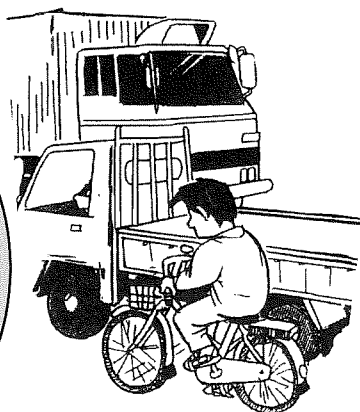
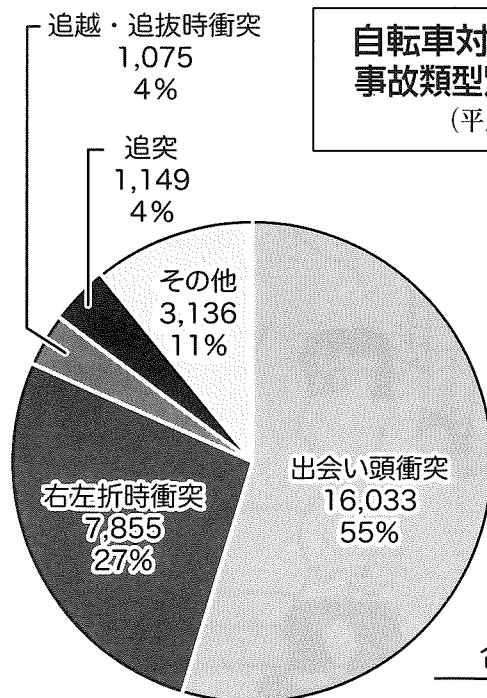
メンタルヘルスに悪影響を及ぼす職場のハラ・スメントの主な訴えには、いじめや心理的暴力(「モビング」とも呼ばれる集団的嫌がらせ)がありました。世界中の職場において、メンタルヘルスについて話し合ったり、打ち明けたりすることは依然としてタブーとされています。

WHOとILOの政策概況では、政府、雇用者、労働者とその組織は、職場におけるメンタルヘルスの保護とその促進には、メンタルヘルスに不調をきたした人が仕事の世界に参加し、活動できるよう支援することが必要だとしています。

その実施には、苦痛を感じる従業員に対応するための管理職研修等が重要だとし、また、投資とリーダーシップが不可欠だとしています。

# 自転車の36%が「車と接触」の危険を経験

— 自転車乗車中の事故が増えています —



合計：29,248件

自転車関連事故の発生件数は、平成24年以降減少傾向で推移していましたが、令和3年以降増加に転じ、令和4年中では6万998件（前年より291件増）となり、全交通事故に占める構成比では23・3%と、平成29年から増加の傾向にあります。

自転車乗車中の事故について、このほど警察庁が行ったアンケート調査によると、約36%の人が自転車に乗っている時に車と接触したり、しそうなったりした経験があることが分かりました。

過去1年間の自転車運転中の経験を聞いたところ、回答者2824人のうち5・8%が「自動車と接触したことがある」と答え、29・9%は「接触しそうなったことがある」と答え、合わせて35・7%が危険な経験をしており、高校生は55・3%が危険な目に遭っていました。

車と接触したと答えた164人の場所（複数回答）では、「交差点で車道を通行中」が47・6%と多く、「交差点以外で車道を通行中」が38・4%などでした。

車から幅寄せされたと訴える人も目立ちました。警察庁は車の運転者に自転車に配慮した走行に努めるよう求めています。

「自転車は危険な乗り物である」ことを自覚して、ヘルメットをかぶり、安全に、慎重に利用する必要があります。

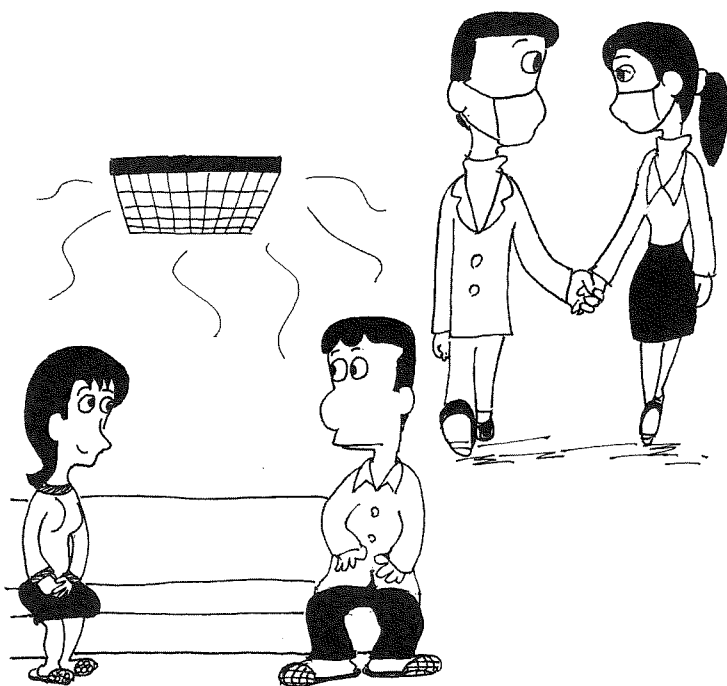
（資料・引用「朝日」23・10・17ほか）

# マスクの着用、外出制限等は有効だった

— 英の学術団体が新型コロナ対策を検証 —

このほど、英国の学術団体が「外出制限やマスク着用、換気の強化など、薬剤以外の対策は新型コロナウイルスの感染拡大を抑える上で有効だった」とする報告書を公表しました。

報告書は「マスク」「人との距離の確保」「検査と追跡、隔離」「旅行制限と検疫」「換気など環境対策」「情報発信などコミュニケーション」の6つの対策について、効果を調べた研究論文を集め、分析したものです。



○人との距離の確保 外出制限などにより人との距離を確保する対策では、制限が厳しいほど効果が大きかった。

○マスクの着用 空気感染等のリスク低減が期待され、実際に感染拡大を抑える効果が見られた。特に「N95」など高性能の医療用マスクではより効果的だった。

○換気等の環境対策 換気の強化や空気清浄機に効果が見られた。ついたてや拭き掃除の有効性は効果の確認が不十分であった。

○対策の有効性 今回有効性が示された対策は感染の流行初期に最も効果的。情報発信は有効。

コロナ禍が続く、ウイルスが変異していく過程で、換気やマスク着用なども含む「空気感染」対策の重要性の理解が求められるようになりました。しかし、酷暑による熱中症対策など時期が重なったことなどもあり、この夏もコロナの感染は拡大を続けました。

今後、報告書が示す科学的根拠や適切な情報に基づき、対策を見直していく必要があります。

(資料・引用「東京」23・10・04ほか)

# 警察庁、自転車酒気帯びに罰則検討

危険運転に「青切符」も ～道交法改正へ～



警察庁は、自転車の危険運転等に対する取締りを強化するため、道路交通法の改正に向けた検討を進めています。

「自転車の酒気帯び運転」に対して罰則を設けることなど、自転車の交通違反取締り強化対策について「自転車の取締りの在り方に関する有識者検討会」で検討を重ねていますが、提言がまとまり次第道路交法改正案をまとめ、来年の通常国会への提出を目指しています。

警察庁によると、自転車による交通事故が減少を続けている一方で、自転車が関係する交通事故は2年連続で増加し、事故全体に占める割合も、23・3%となるなど上昇を続けています。

《今回検討されている主な事項》

・酒気帯び運転の罰則化：自転車については罰則規定から除外されている「酒気帯び運転」（呼気1リットル中に0・15mgのアルコール濃度検出）について罰則化する。

・自転車の交通違反を「青切符」の対象に：「酒酔い運転」（正常な運転ができない恐れがある状態）については、自転車も刑事処分の対象となる「赤切符」が交付されるが、不起訴になるケースが多く、現行の「指導警告票」による「注意喚起」では効果が薄い。そのため、自転車の交通違反についても「青切符」（反則金を納付すれば刑事事件として起訴されない制度）を導入することで取締りを容易にする。その他「スマホながら運転」などの罰則化なども検討されています。

（資料・引用「東京夕」23・08・31ほか）

# 海外の事故・災害から

## …2023年9月…

- ▼インドネシア バリ島 リゾートホテルの屋外の斜行エレベーターが突然落下。乗っていた従業員5人全員死亡。
- ▼韓国 釜山 ビルに入る銭湯で火災。地下1階ボイラー室で爆発。負傷24人。
- ▼中国 台湾・香港・広東 台風11号。台湾で24万世帯以上停電。香港では記録的豪雨で道路冠水、地下鉄駅水没。死者不明2人、負傷100人以上。
- ▼ブラジル リオグランデ・ド・スル サイクロンによる豪雨で河川氾濫、大規模洪水。4千人以上避難。死者不明32人。
- ▼モロッコ マラケシュIIサファイ地方 M7の地震が発生、死亡約3千人、負傷5600人以上。5万棟以上の住宅が被害。都市部から被害地に繋がる道路で土砂崩れ。
- ▼中国 成都からシンガポールに向かっていた旅客機でエンジンが発火、貨物室やトイレから煙が上がり、客室に広がる。乗員乗客は避難。負傷9人。
- ▼ベトナム ハノイ 10階建集合住宅の1階電気盤から出火、拡大。違法建築で救助活動が難航。死者不明56人、負傷37人。
- ▼中国 江蘇州 2度の巨大竜巻。137軒の家屋倒壊。約2260軒で一部損傷。街のあちこちで火災。死者不明10人、負傷8人。
- ▼リビア東部 デルナ 暴風雨によりダムが決壊し大洪水が発生、都市の25%が壊滅的被害。死亡7200人、負傷8300人。
- ▼リビア ベンガジから洪水被災地のデルナに向かうギリシャの救助隊のバスが衝突事故。死者8人、負傷14人。
- ▼ペルー ワンカベリカ アンデス山脈の渓谷を走行中のバスが約200m下に転落。死者不明25人、負傷34人。
- ▼韓国 京畿道 コンサート会場の設営中にステージが倒れて、作業をしていたスタッフ9人が負傷、うち2人が重傷。
- ▼台湾南部 屏東県 ゴルフ用品工場で火災が発生。救助活動に入った消防士4人が爆発に巻き込まれて死亡、従業員6人が死亡。行方不明。約110人が負傷。
- ▼イラク ニナワ州 結婚式パーティーで打ち上げられた花火が天井付近に引火し火災。死亡113人、負傷150人以上。
- ▼ジンバブエ東部 チェグツ 鉱山で落盤事故。6人が死亡、15人が地下に閉じ込められ安否不明。
- ▼アメリカ イリノイ州トイトポリス 無水アンモニアを積載のトレーラーが衝突事故。無水アンモニア約4000ガロンが漏出し、周辺住民避難。死者不明5人、負傷5人。

〔資料・引用〕災害情報 早稲田大学理工学術院総合研究所編集発行、ほか